



愛郷
無限

2016年05月23日号 NO.0545

写真提供:大山市

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035

tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：大曲駅前の交流拠点【毎日大曲】の意味

ひなび大曲LLPが運営する大曲駅前の新しい交流拠点【毎日大曲】。

3月18日のオープンから早2ヶ月が経ちました。オープンから数週間は来場者が芋洗い状態となり、周辺のお店や駐車場にもご迷惑をおかけすることがありましたが、その混乱もようやく落ち着き、今はちょうど良く分散して毎日大曲での時間を愉しんでもらえるようになりました。このゴールデンウィーク中には再び沢山の来場者で賑わっています。

特筆すべきは、市外・県外からの来店者がお客様の半分以上を占めているという事実。
秋田市、県南各市や、県外だと盛岡市、山形県、遠くは仙台市から。

毎日大曲の店頭でも、積極的に町巡りや周辺のお店のご紹介をしているので、彼ら彼女らは毎日大曲を訪問する前後で、大曲駅前エリアの何軒かを巡り、半日程度の町歩きをしてくれています。また週末だけでなく、平日の来店者が多いのも特徴です。仕事のお休みの関係でしょう。

元々、地元映画を自分たちで制作したいと始まったひなび大曲LLPの活動。実際の映画を作る前に、どんな人たちに、大曲の何をどのように伝え、そして映画を見たどんな人たちに実際に大曲へ来て欲しいのかを一年かけてじっくりと議論してきました。その結果、私たちは30～40代の女性をターゲットに限定し、外部から大曲へ彼女たちが来なくなる戦術を決め、毎日大曲の設備と商品群を作ってきました。それらは地元映画制作に向けて何を見せたいかを実証する場であり、その途中経過なのです。

実際、市外県外の30～40代の女性が平日週末関係なく毎日大曲を訪ねてくれているのは嬉しい状況です。彼女たちは恋人や亭主や両親、そして子供達を連れてきます。また口コミの発信力も抜群に高いのです。これまで大曲駅前に来ることのなかった人たちが大半ですが、口コミやインターネットを通じて【最近の大曲は面白い】と自ら発信し、自ら友人知人に紹介してくれるのも特徴です。ここ最近の大曲駅前の路上では、普段見慣れぬ風体の人たちや、毎日大曲を探して歩いている人たちが徐々に増えている様子を実感されている人も多いと思います。

秋田さきがけ新聞にはこれまで毎日大曲関係の記事で7度、TVニュースや情報番組、情報誌などでは8件も報道・記事掲載いただけました（資金力がないのでお金をかけない記事掲載による発信をどんどん取り組んでいます）。もちろんそれも重要な要素です。

これまでの大曲納豆汁や土屋館わいわい広場、商店街・青年部活動などから学んだ経験で、新しいことに取り組む中で一番難しいことは、まずその真意を地元の人たちに理解してもらえないことでした。それゆえ、今回の毎日大曲でも、先ずは外の人達に認めてもらって、その結果をもって地元の方々にもその価値に気付いてもらうという手法を取りました。

市外・県外の方々は多少の不便さがあっても、目の前に駐車場が無くても、わざわざ訪ねてくる価値を毎日大曲に見い出してくれています。しかも毎日大曲での時間をとてもし、その後もリピーターになってくれる方が増加しています。それに対して「駐車場もなくて、看板もなくて分かりにくいし、蔵で段差が多い。大した商品もない!」、「こんな商売じゃダメだ」とお叱りをいただくのは、予想通り地元の、しかも一部のご高齢の方々です。(全員じゃないですよ。若い人たち頑張れ!とエールをいただける方も、近隣に声かけ誘って一緒に来場いただける有り難い方々も沢山いらっしゃいます)

現在開催中の大曲まちゼミ。今回で三年目/第6回を迎えています。3年目になって初めて参加される方が多数いらっしゃいます。そんな方はこれまで知らなかった、聞いていたけど地元なので行く気にならなかったと仰います。一方で旧市外や近隣市町村からの参加者が多くいらっしゃいます。これらはもちろん私たちの広報力の不足もあります。でも、毎日大曲とまちゼミの二つのことは、地元の本当の価値を見い出そうとしない地元民の性分を如実に表しています。

毎日大曲も、まちゼミも、【地域の価値】を自らの努力で高めていく手段の一つでしかありません。でも、一発の大きな集客イベントよりも、そのような日常の細かい積み重ねが沢山あることが重要であると私たちは考えています。地元の者ほど地元に関心がない。身近なものを卑下して見る。「お手並み拝見」とでも言わんばかりに上から目線で遠巻きに眺めて、失敗するのを待っている(笑)

今回、毎日大曲で私たちが伝えたいのは【日常の大曲の豊かさ・暮らす楽しさ】なのです。だから決してケバケバしいことはしていません。扱う毎日大曲ブランド商品も元々地元であり、愛されていたものをお化粧したものです。

地方創生の最大の敵は「無関心」です。このような状況ですが、地元の方々には時間をかけながら、実際に見てもらいながらご理解いただきたいと思います。地元の皆さま、暖かい目で見守ってください。そして実際に毎日大曲を訪ねてみてください。